



## 人の息はなぜ口を小さくすると冷たく、大きくすると温かいの

### 息の速さと強さが関係している

口を小さくすばめて出しても、大きくして出しても、はく息は同じものですので、温かさは変わりません。どうしてちがいが出なのでしょう。口を小さくすばめて、ゆっくり息を出し、手にふきかけてみましょう。息は冷たくなっていませんね。口を大きく開いた場合と、同じような温かさの息が出ています。しかし、口を小さくすばめて、強く速く息を出した場合はどうでしょう。こんどは、息が冷たく感じられますね。このように、口を小さくすると息を冷たく感じるのは、口から出る息が速くて強くなったときだけなのです。

これは、水鉄砲のノズル(水の出口)が、太いときと細いときとでは、水の出る勢いや、水の飛びきよりが変わるのと同じで、口を小さくすばめると強く速く息が出るのです。

### 扇風機の風をすずしく感じるの

体の表面の、皮ふのまわりの空気は、いつも体温で温められています。わたしたちは、自分の体温で温めた、空気の服を着ているといえるのです。扇風機の風にあたると、風でその空気の服がふきとばされ、風が皮ふの体温をうばっていくため、すずしく感じるのです。ですから、口を小さくすばめて出した息を、冷たく感じるのも、扇風機の風をすずしく感じるのと同じようなわけなのです。(監修・保志 宏)

